

ピカイチ先生の
生活経営セミナー

2017年09月

算数で考える資産運用
(① 因数分解)

ネクストライフ・コンサルティング

〒975-0038

福島県南相馬市原町区日の出町167-3

info@next-life-consult.com



ピカイチ先生

ピカイチ先生

検索

因数分解とは？

抽象化

因数分解

次元を上げる

$$(X + a)(Y + b)$$



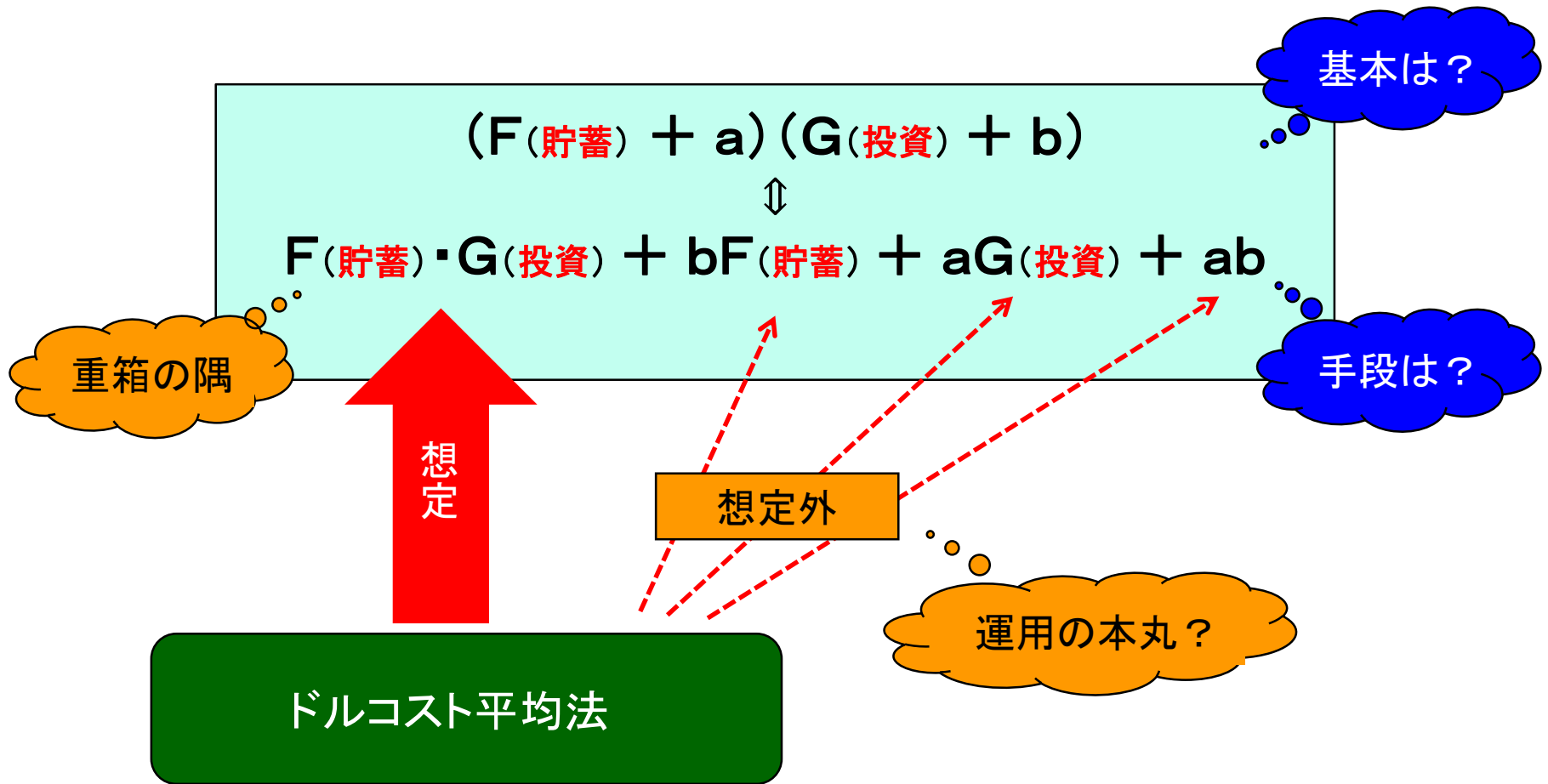
$$XY + bX + aY + ab$$

展開

具体化

次元を下げる

「ドルコスト平均法」を因数分解する



「個人情報」を因数分解する

個人情報を持つ、でも...

『広く』
持ちたくない

『長く』
持ちたくない

『深く』
持ちたくない

基本は？

$(F_{\text{広く}} + a)(G_{\text{長く}} + b)(H_{\text{深く}})$

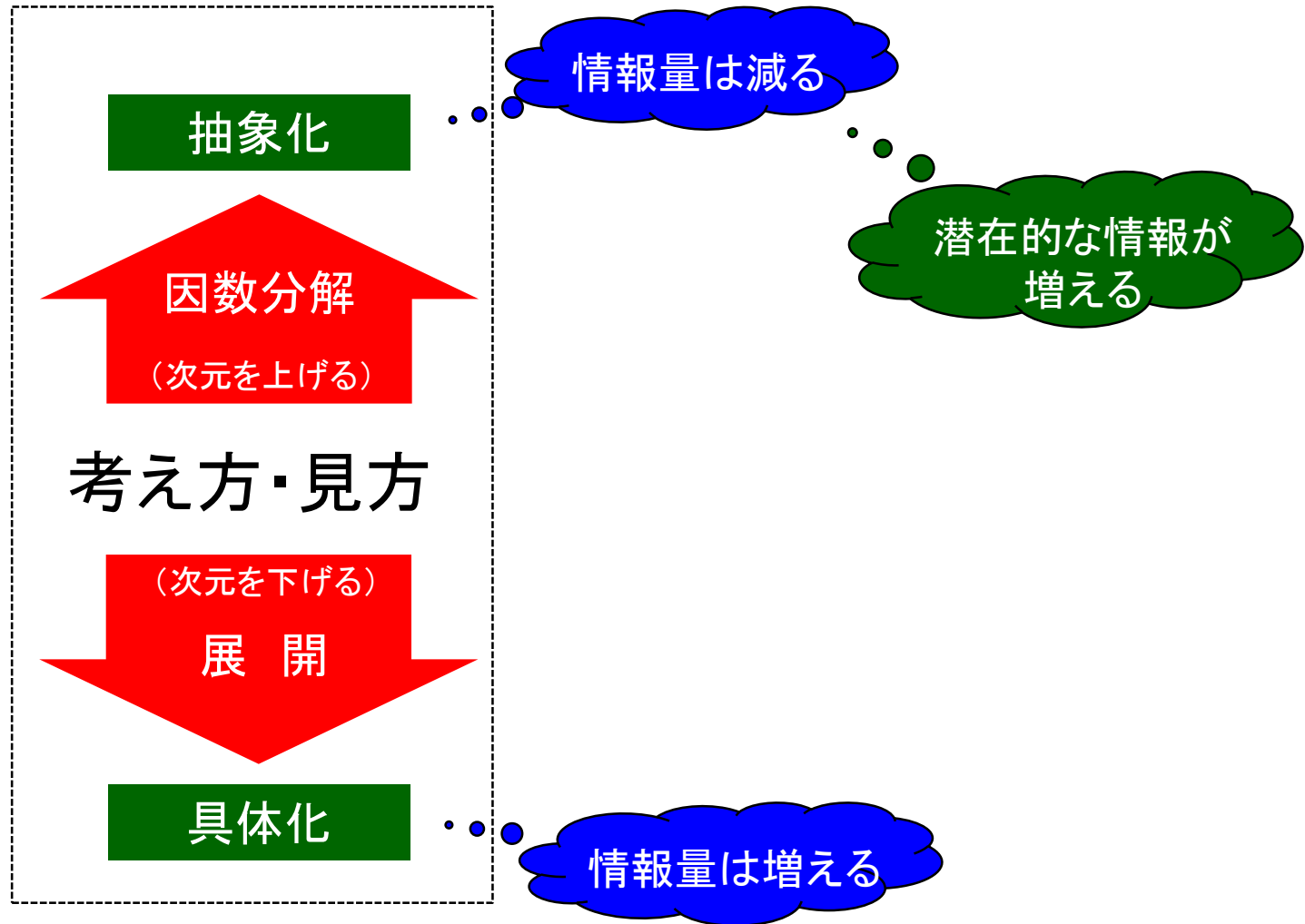
⇕

〇〇情報 + △△情報 + □□情報

手段は？

個人情報を
持ちたくない

「思考」を因数分解する



リーダーが持つべき視点 (1/2)

視点を上げるといことは、より多くの情報を持っているということなのだ、と思われるかもしれませんが、実は、それは間違いなのです。

[動物]と[イヌ]を比べてみてください。あるいは[イヌ]よりも下の、自分のペットの[タロウ]を比べてみてください。[タロウ]には、こういう形をしていて、こういう色をしていて、こういう肌触りで、こういう匂いで、こういう動きをして、……と、いくらでも情報が詰まっているでしょう。ところが、[動物]には、自ら動きまわられるもの、という程度の情報しかありません。

「あそこの角にタロウがいたよ」と言われるのと、「あそこの角に動物がいたよ」と言われるのと、どちらが情報量が多いかは明らかでしょう。[イヌ]の[タロウ]は、[動物]であることの全情報を持ったうえに、さらに、[イヌ]であるために必要な全情報と[タロウ]にまつわる情報を持っているのだから当然です。

ちょっと待って、[動物]であれば[イヌ]であることにかかわる情報も持っているのだから、[イヌ]より[動物]の方が情報が多いのでは？ と勘違いした人もいます。それは間違いです。

(次頁につづく)

「心の操縦術」(苦米地英人)より

リーダーが持つべき視点 (2/2)

[動物]は[イヌ]よりも視点の高い概念ですから、潜在的には持っているにしても[動物]という概念そのものが[イヌ]の情報を持っているわけではないことにご注意ください。

つまり、視点を高くすると、情報量は減るのです。しかし、潜在的な情報量は増えます。

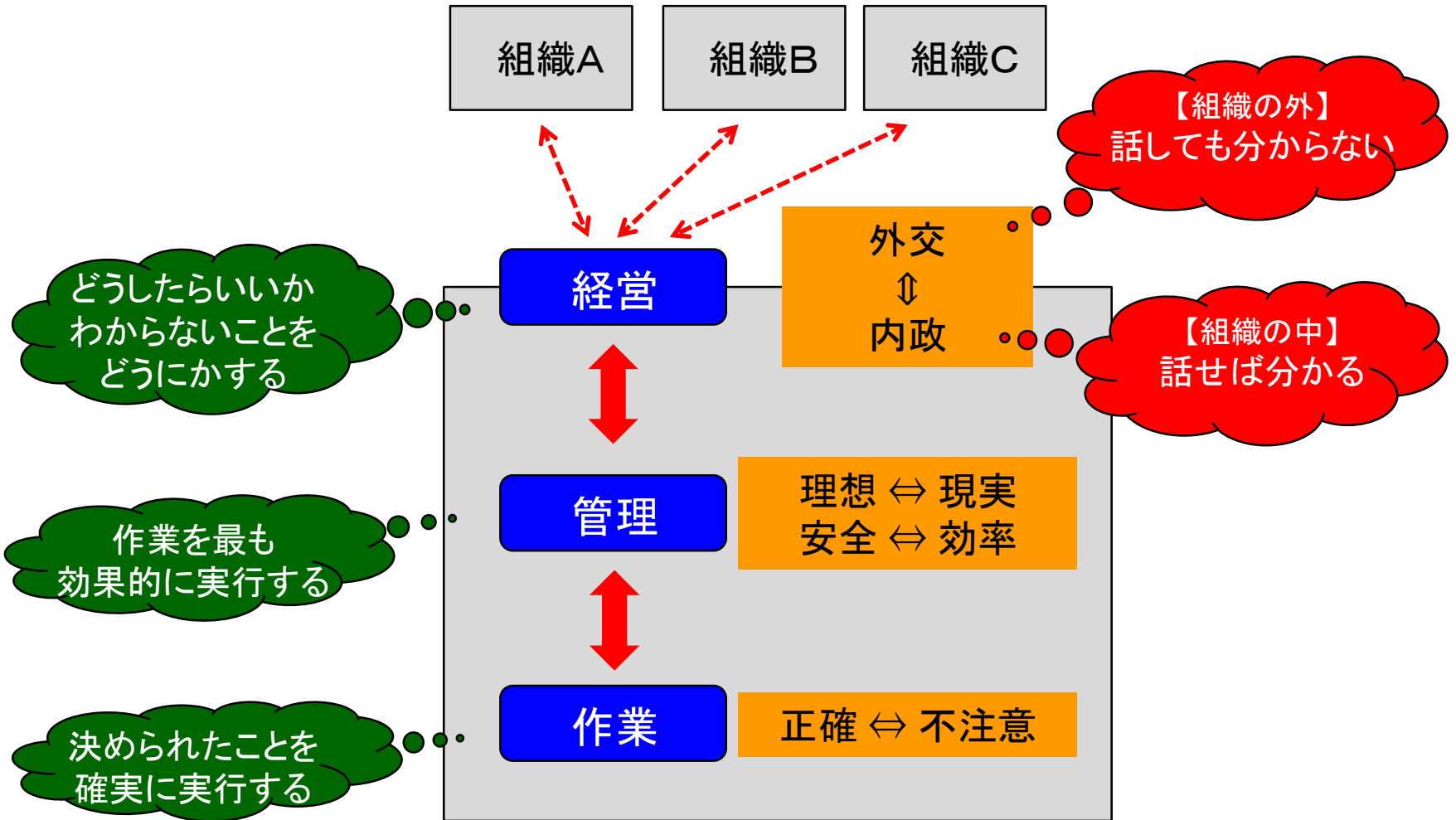
[動物]は[イヌ]にも変われますし、[ネコ]にも変わる、ということです。[イヌ]は[動物]に変わりません。けれども、[動物]は潜在的に[イヌ]を含んでいるので、[動物]の高さの視点を持っている人は、いざとなれば[イヌ]にも対処できるのです。

視点を高くすると情報量は減ります。けれども、様々な状況に対処できるようになるのです。

別の言い方をすれば、リーダーは現場よりも持っている情報は少ない。現場にしかわからない情報がある。けれども、高い視点を持っていればどんな現場にも対処できる、ということです。現場の人が経験したことのない、新たな事態への対処すら、できるわけです。

「心の操縦術」(苦米地英人)より

「組織」を因数分解する



真実の問題解決法 (1/2)

私が審査員を務めたときに賞を獲った発明は、[トタンの釘抜き]というものでした。

トタンは波を打った形をしていますから、釘を抜くのが大変なのです。釘抜きがトタンにフィットしません。賞を獲った[トタンの釘抜き]はどうなっていたかという、釘抜きの形自体がトタンに合わせて曲がっているのです。

ある種、すごい発明だと思います。けれども、この解決方法には高い視点がありません。問題はトタンが波打っていることである。では釘抜きも曲げましょう。そういう発想です。

これは視点が低い発想なのです。視点が低いとはどういうことかという、他のことには使えないということです。応用が利かないのです。

問題解決の方法は、様々な場面で応用できるものがないに決まっています。ですから、高い視点での解決のほうが重要なのです。

(次頁につづく)

「心の操縦術」(苦米地英人)より

真実の問題解決法 (2/2)

高い視点での問題解決する代表的な人々は、科学者です。彼らは現象を理論化して考えます。ものそのものの次元より高い視点から、問題を見ているのです。

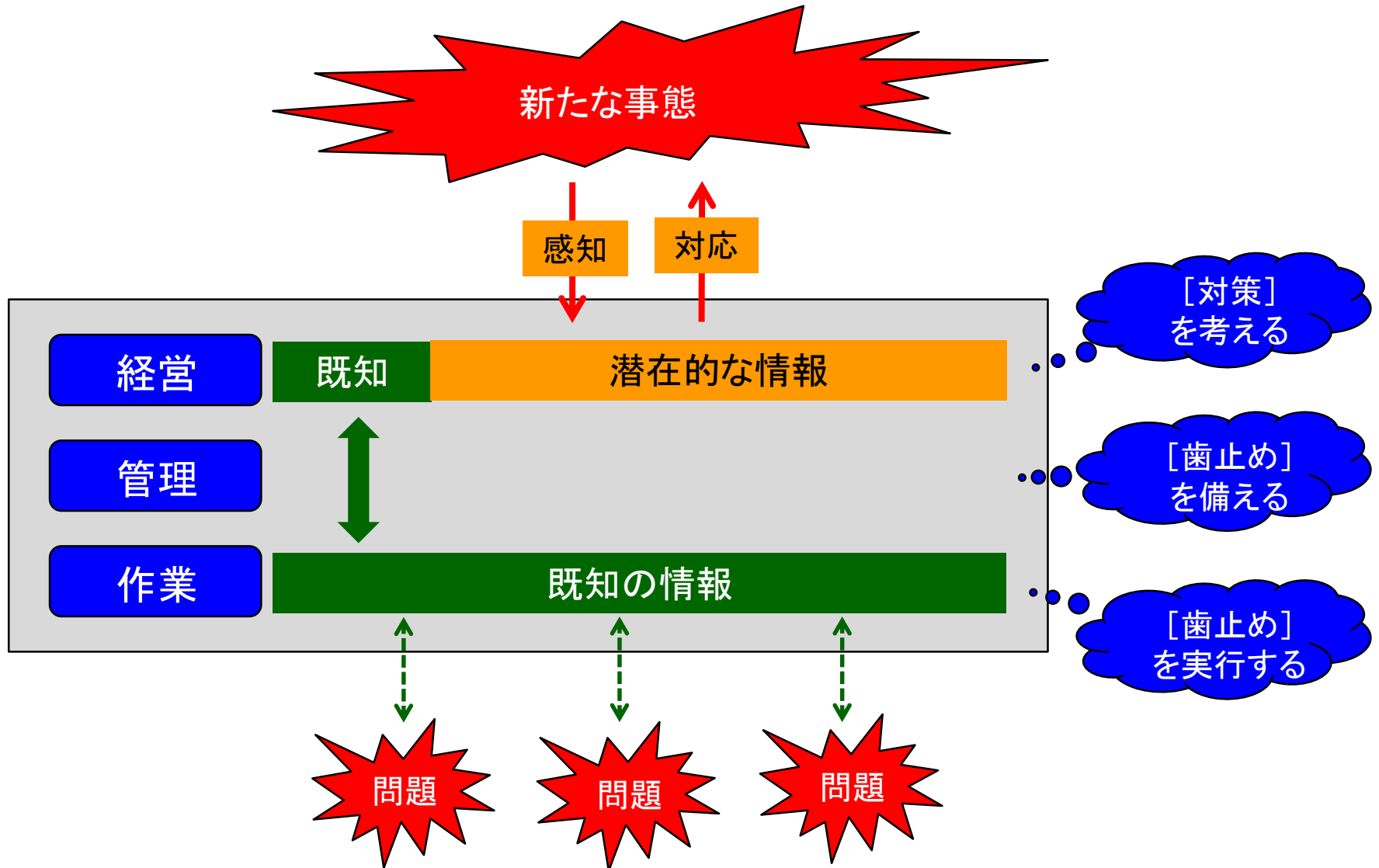
もし科学者が[トタンの釘抜き問題]を解決しようとするならば、まず「釘抜きをどうしようか？」という発想にはならないでしょう。

釘抜きを曲げなければならないと思うのは、トタンが曲がっているからです。そして、トタンに釘を打つから問題なのです。

となれば、トタンを使うのをやめよう、ということになるかもしれません。釘を打たずにすむように溶接方法を考えだすかもしれません。こういうふうを考えるのが、高い視点で考えるということです。

「心の操縦術」(苦米地英人)より

もう一度、「組織」を因数分解する



「自動車業界」を因数分解する

